

# 金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

## 本の本望 人に読まれること

### わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利さん



うなっていくのか、気になっ  
て仕方ありません。後は自分  
で勝手に想像、いや創造する  
しかなさそう。文庫になった  
ものすべてを読み終えたの  
で、もう後はありません。



先日、札幌市中央図書館へ  
行きました。受験シーズン最  
盛期、若い人が肩間(かたま)にシワを  
寄せ、辞書や参考書を前に、  
ペンを走らせ考え込んでいま  
す。落ち着いた雰囲気の中で  
集中でき、周りが同志ばかり  
なのもメリットのようです。  
十分に備え、成果を上げてほ  
しいものです。

この図書館、近年シニアの  
利用が目立ちます。パッと見  
ても受験生らしき若者を除く  
とシニアばかり。熱心に北海  
道の歴史の本を探す人は最近  
流行の郷土史家を目指すので  
しょうか。まだ埋もれた偉人  
がいるので、どんな歴史を掘  
り出すか楽しみです。資格図  
書のコーナーにいるのは、何  
かの資格取得に挑戦する人で  
しょうか。地域社会とつな  
がり、新しい目標を立てて行動  
する、その日々が豊かな生活  
と呼べるのだと思います。



豊富な蔵書数に加え、無  
料、開館時間内の利用無制  
限、新聞・雑誌は多数、冷暖  
房完備、バリアフリー対応、  
おまけに最近では軽食コーナー  
まで完備されている図書館も  
あり、充実した設備・空間の  
中で、一日中快適に過ごすこ  
とができる、なんともありが  
たいことです。

私も利用しますが、以前は

借りていた小説を最近では借  
りません。というのは風呂で読  
むのが楽しみて、カバーをか  
けても借りた本では申し訳な  
いからです。また、単行本を  
読みながら寝入ってしまう、  
落下した本が顔を直撃、とい  
う悲劇以来、文庫専門です。

最近では気分転換にはもって  
こいの時代劇が好みで、気に  
入った作者のものをすべて読  
みます。時代劇では、山本一  
力、高田郁、佐伯泰英、浅田  
次郎、朝井まかて、乙川優三  
郎らの作品が好きです。

特に宇江佐真理さんが好き  
で、2015年に亡くなられ  
たのが非常に残念です。髪結  
い伊三次とお文、伊与太やお  
吉、そして不破家の人々はど



という状況ですから、すべ  
て新本というわけにはいか  
ず、古書店で文庫本を大人買  
いしています。その結果、部  
屋がミニ図書館のようになって  
しまい、2階でもあり、床  
が抜けるのではないかと心配  
になるほどです。

そんなとき、友人の営む高  
齢者住宅を訪問し、「入居者  
は皆、読書が楽しみ。しかし  
本が足りない」と聞かされま  
した。「これだ！」とそれ以  
来、読み終えた本をせっせと  
運び込み、大いに喜ばれてい  
ます。こうして多くの人に読  
まれるのは、本も本望ではな  
いでしょうか。